

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.12

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐweb サイトです。

特集

いつか見た
ガール

自分のスタイルを貫くあまり、クラスから浮き上がったという孤高の女子がいます。主人公であるナイーブな男子の視線は、彼女がその時、どのように高くあつたかを捉え、物語を描き出します。クラスのマジョリテイの同調圧力や、閉塞した空気に違和感を覚えながらも、男子は自分では行動を起こせません。孤軍奮闘している彼女の想いを感じとりながらも、同志として闘えないもどかしさ。それでも、二人にはどこか通じる気持ちがあつたのです。教室に旋風を巻き起こした彼女は、やがて姿を消すことにもなります。あのガールたちは生き難い場所である学校で、どのように過ごしていたのか。少年の心に人生がひっくり返るようなインパクトを与えた彼女。今、語られるのは、客観的な事実関係ではなく、ひとりの少年が特別な存在として心に宿した彼女の思い出であり、大切な記憶です。人が人に心を寄せる真の友愛がここにあります。



スター★ガール

Stargirl.

作者 ジェリー・スピネッリ
 翻訳者 千葉茂樹
 出版社 理論社
 発行 2001年4月
 ISBN 978-4652071977

review



続編の「ラブ」はスター☆ガール側の視線による物語です。



スター☆ガールと名乗る、あの子の子のハイスクールでの行動は奇妙でキテレツで、ともかく「みんな」と違ってました。ウクレレを抱えて、いつも歌っている。化粧のな顔と奇抜な服装。机を勝手に飾りつけたら、誰彼かまわず誕生日にパースデイソングをプレゼントしたり。学校一フレンドリーな存在でありながら、友だちのできない彼女。何よりも変わっていたのは、自分のことを省みず、他の人々を喜ばせようとすること。誰かの小さな幸福を祝福し、苦しみや悲しみもまたシェアして慰めようとする。やがて彼女はその博愛主義のために、学校中を敵に回し、冷やかな「無視」によって、存在を消されていきます。彼女が好きになってくれた「ぼく」は、どうしても、最後まで彼女の味方であることができなかった。いとおしくも切ない後悔の物語です。

あだ名はシャンツアイ

ぼくの初恋の女の子



作者 上條さなえ
 出版社 ポプラ社
 発行 2004年12月
 ISBN 978-4591083741

review



シャンツアイ(香草)というあだ名で呼ばれる女の子。中国から日本の小学校に転校してきた青木愛は、ちょっと変な子でした。みんな「どーでもいじやん」って雰囲気、誰も手をあげない教室で、一人だけ熱くなっている真面目な愛は、いい子ぶった、クサイ、ウザイ奴と思われてしまいます。僕、国友勇気は「どーでもいじやん」の一人で、学校の勉強よりも塾が大事。他人のことよりも自分が大切。だから、友だちの太郎がいじめられて、パニック障害になり、登校できなくなっても守ってあげられなかった。太郎を毎日、迎えに行き保健室登校ができるようにした愛の、その真っ直ぐな瞳を勇気は好きになります。クラスから孤立していく愛を守り、ひとりぼっちにしないことを勇気は決意します。リアルな教室は愛と勇気を受け入れてくれるのでしょうか。

ユウキ



作者 伊藤遊
 出版社 福音館書店
 発行 2003年6月
 ISBN 978-4834006292

review



友だちの勇毅が転校した喪失感に胸を痛めていたケイタに、新学期、新しい出会いが巡ってきます。なぜかいつもユウキという名前の子と親しくなるケイタ。祐基と悠樹、そして勇毅。それぞれ個性的だったユウキたち。果たして六年生になったケイタのクラスにやってきた転校生は優希という名の女の子でした。自己紹介で、占いができると口にした優希は、不思議少女として教室の人気を博していくものの、次第に同級生の無理な願いごとを引き寄せてしまいます。彼女の危ういスタンスが気になっていったケイタが予期したように、やがて優希は教室での居場所を失い孤立していきます。どう接していいのか悩まながらも、ケイタは優希の想いに触れ、ある奇跡を得ることになります。繊細で理知的な子どもたちの感性の輝きが魅力的です。

ファイヤーガール

Firegirl.



作者 トニー・アボット
 翻訳者 代田亜香子
 出版社 白水社
 発行 2007年6月
 ISBN 978-4560027646

review



ファイヤーガール、ジェシカ・フイーニーは、トムのクラスにやってきた転入生で、数週間でもた転校していった女の子です。事故に遭い大ヤケドを負った彼女の顔は崩れ、仮面のような顔と、こぼれた身体をしていました。彼女の前では誰も沈黙します。気弱な少年であるトムもまた。どう接していいのかわかりません。ジェシカのことを遠巻きに見守り、噂をするだけで誰も声をかけないクラスの中で、トムは彼女に関心を寄せていきます。善意をストレートに表現することが難しい教室で、彼女に何ができたのか。寡黙なジェシカの心の中が垣間見えたり、クラスの子たちが互いにけん制したり、恥ずかしがって素直になれなかったり。子どもたちが作りだす場所は、優しさに満ちてはいないけれど、わずかに触れ合う気持ちのスパークが希望の光を放ちます。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.12 2020年5月1日発行

●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、受賞。



Twitter 連携しています。

@tomoostretch